

○ アサヒグループが被災地の復興支援

アサヒグループの三公商事（呉本公太社長）は、4月26日、東日本大震災で津波被害を受けた岩手県大槌町に派遣する社員の出陣式を岡谷市の本社で行った。

グループ26店舗と本社の社員500人を対象にボランティアを呼びかけたところ、96人が名乗りを上げた。

26日に出発する第1次隊9人を始めとして、平日を中心に第6次、7次隊まで順次派遣する計画という。

市民新聞グループ 岡谷市民新聞・下諏訪市民新聞・諏訪市民新聞・茅野市民新聞・たつの新聞・みのわ新聞・南みのわ新聞共通版

大槌町で支援活動へ

アサヒグループ 第1陣 従業員ボランティアが出発

東日本大震災

復興へ支援

県内外で遊技場二十六店舗を経営するアサヒグループの三公商事（呉本公太社長）は二十六日夕、岡谷市長地権現町の本社で、被災地の復興支援に当たるボランティア第一陣の出陣式を行った。有志が集まった九人の従業員が、幹部社員や従業員らに見送られ、岩手県大槌町に向けて出発した。

同社では、マスク二万四千枚や、社と従業員の善意を合わせた一千百万円を被災地に送るなど、震災の発生直



後から支援活動を展開。このほか、県内二、十三店舗全てでネオンを消灯し、店内照明も

「震災以来、自粛をしたり支援金を募ったりしてきたが、いよいよ自分たちで汗をかいて復興に協力できる段階に入った。生きてること、家族を持つていること、仕事を持つていることの喜びを感じながら、力いっぱい頑張ってきて」と激励し、新調したそろいのユニホームを一人ひとりに手渡した。

ボランティア派遣は、「グループとしてボランティアを派遣してはどうか」という声が従業員から上がり、社の意向と合致。県内の店舗や本社に呼び掛けたところ、九十六人の有志が立ち上がった。第一陣の派遣期間は二十六日から二十九日（金）までの四日間。現地ボランティアセンターの指示で、津波の爪痕が残る被災地で泥だし作業をするほか、水や食料なども持ち参し、届ける。

出陣式で呉本社長は仲間に見送られ出発する第1陣

では今後、第一陣の活動状況を基に、九十六人のボランティアを各隊九人前後の人員構成で、順次派遣していく。